

まちづくり活動計画書

1 助成を受けようとするまちづくり活動について

団 体 名	大野木みんなまちプロジェクト
ま ち づ くり 活 動 名	みんな知図を描こう ～まちを歩き、歴史をつなぐ～
活 動 地 域	名古屋市西区 大野木学区
活 動 の 背 景	昨年度は、対話コミュニティ COCOCHI の活動として、Feel 度 Walk（まち歩き）を通して地域の魅力や気づきを共有し、対話を通じた場づくりを行った。活動を重ねる中で、自治会や老人クラブなど地域団体とのつながりも生まれ、多世代が関わる地域活動へと発展してきた。 また、活動を通して「みんなまちパートナー」と呼ばれる協力者も少しずつ増え、対話コミュニティの活動から、地域の人とともに進めるまちづくり活動へと変化してきた。そうした流れを受け、今年度より団体名を「大野木みんなまちプロジェクト」とし、地域に根ざした活動として継続・発展させていく。 今年度は、昨年度のまち歩きで見えてきた地域資源や歴史に着目し、大乃伎神社や大野木城跡など、大野木学区の歴史を深掘りする活動へと発展させていく。地域を知り、語り合い、次世代へつないでいくことを通して、地域への愛着や関わりを育むまちづくりを目指す。
目 的 ・ 目 標	■ 目的 ・ 大野木学区の歴史や地域資源を見つめ直し、地域への愛着や誇りを育むこと。 ・ 子どもから高齢者まで、多世代が地域について学び合い、ゆるやかにつながる場をつくること。 ・ まち歩きや対話を通して、地域の魅力や記憶を次世代へつないでいくこと。 ■ 目標 ・ Feel 度 Walk（まち歩き）を継続し、大乃伎神社や大野木城跡など、地域の歴史や文化への理解を深める。 ・ 自治会や地域団体、保育園等と連携し、多世代が関われる地域活動を実施する。 ・ 活動を通して、地域住民が「できる時に、できる形で」関われる関係性を育てる。 ■ 成果 ・ 地域の歴史や文化を知る機会が増え、地域への愛着や関心が高まる。 ・ 子どもから高齢者まで、多世代交流や地域内のつながりが広がる。 ・ 地域住民や団体との連携が深まり、継続的な地域活動の基盤づくりにつながる。

活 動 内 容	① Feel 度 Walk と知図（まち歩き）の実施 昨年度実施した「Feel 度 Walk」を継続し、大乃伎神社や大野木城跡など、大野木学区の歴史や地域資源をテーマにまち歩きを行う。まち歩きでは、参加者が気になった風景やモノを「知図」として記録し、それをきっかけに対話や交流を行うことで、地域の魅力や記憶を共有する。 ② 地域の歴史を深掘りする活動 昨年度のまち歩きを通して見えてきた大野木城跡や地域の歴史について、地域住民への聞き取りや資料調査を行う。地域の人たちが持つ記憶や知恵を共有しながら、地域資源を次世代へつないでいく活動を行う。 ③ 子どもと地域をつなぐ活動 保育園等と連携し、地域の歴史や文化に触れる交流活動を実施する。地域を歩き、地域の人と関わる体験を通して、子どもたちが自分の住むまちに親しみを持てる機会をつくる。 ④ 地域連携イベント「みんなまちフェス」の開催 自治会、老人クラブ、地域団体等と協力し、多世代が関われる「みんなまちフェス」を開催する。知図展示、昔遊び体験、交流企画等を通して、地域の人同士が自然につながる場をつくる。昨年度は 92 名が参加し、老人クラブとの連携によるボッチャ体験会も実現した。	
活 動 予 定 期	令和 8 年 6 月 ～ 令和 9 年 2 月	
助 成 金 交 付 申 請 額	100,000 円	※1 回目（上限 5 万円） ※2 回目、3 回目（上限 10 万円）

2 まちづくり活動の視点

以下の視点で活動内容についてご記入ください。

審査基準① 必要性	・地域に根ざしたまちづくり活動内容か ・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か ・活動の実施にあたって、まちづくり活動助成金が必要な活動か ・活動メンバーのみの趣味や仲間づくりではなく、多くの人に理解や共感が得られる活動か
	・昨年度実施した Feel 度 Walk（まち歩き）では、学区にある 9 つの町を歩きながら地域の魅力や気づきを共有した。参加者の発見を模造紙に貼り付け、学区地図に見立てた「大野木学区みんな知図」を作成した。「知図」を通じた対話から新たなつながりが生まれた。活動を重ねる中で、自治会や老人クラブ等との連携にも発展し、「みんなまちフェス」では 92 名が参加する多世代交流の場となった。昨年度の取り組みをまとめた「みんなまち瓦版」を見た地域の方が、自分にも何かできることはないかと連絡をいただくなど、じわじわと地域コミュニティが広がってきていることを実感している。 ・今年度は、昨年度のまち歩きを通して見えてきた大乃伎神社や大野木城跡など、地域の歴史や文化に着目し、地域を知り、語り合い、次世代へつないでいく活動へ発展させる。 ・保育園や地域団体とも連携し、子どもから高齢者まで、多世代が自然に地域と関われる場をつくることで、地域への愛着やつながりを育てていく。
審査基準② 実現性	・活動内容が具体的になっているか ・活動内容の資金計画などは妥当か ・人員や規模などは妥当か

・昨年度は Feel 度 Walk を全 3 回実施し、学区内 9 町を歩きながら地域の魅力や気づきを共有した。また、「みんなまちフェス」では自治会や老人クラブ等とも連携し、92 名が参加する多世代交流イベントを開催することができた。

・今年度も、まち歩きや地域イベントを中心に、会場使用料、消耗品費、印刷製本費、保険料等を見込み、無理のない予算計画で実施する。

・昨年度の活動を通して、大野木城ゆかりの方ともつながりが生まれた。今年度は、大野木城の歴史や地域の記憶について学ぶ機会として、ゆかりのある方をゲストとして招き、地域住民とともに歴史を学び合う場づくりを検討している。

・協力団体（NPO 法人教員副業コーディネーターまちまち）や、活動を通して生まれた「みんなまちパートナー」と連携し、「できる人が、できる時に、できる形で」関われる運営体制を整えている。これまでつながった自治会、老人クラブ、地域団体等と役割分担を行いながら、継続的な地域活動として実施していく。

審査基準③ ・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか
発展性 ・活動実施後に、地域のまちづくり活動にどのような波及効果を及ぼせるか

・昨年度の活動では、まち歩きや対話を通して、地域住民同士の新たなつながりや、小さな実践が生まれた。特に「みんなまちパートナー」と呼ばれる協力メンバーが増え、地域の人とともにつくる活動へと少しずつ発展してきている。

・今年度は、同じ地域を繰り返し歩き、地域の歴史や文化を深掘りすることで、新たな発見や地域資源を活かした活動につなげていく。

・地域住民の「好きなこと」「得意なこと」がまちの中で活かされる機会を増やし、多世代が自然に関わり合える地域活動へ発展させていく。

・将来的には、家庭・地域・学校をゆるやかにつなぎながら、地域全体で子どもの育ちを支える関係づくりへと広がっていききたい。

- 3 活動にあたり他団体（町内会、自治会他）、企業、行政の部署など協力する又は調整を図る必要がある場合には、その名称と内容を記入してください。既に連絡等を取っている場合にはその日付も記入してください。

名 称	内 容
・ 大野木学区連絡協議会	・ 回覧板や連絡網での活動のお知らせを告知していただくように、お願いする。
・ 大野木学区老人クラブ 地域連合子ども会など	・ 地域イベント開催への協力
・ 大乃伎神社奉賛会	・ 会場提供など
・ 寺子屋大の木	・ 子どもたちが地域の歴史や文化に触れることのできる交流活動の実施
・ 特定非営利法人 教員副業コーディネーターまちまち	・ 教員による地域貢献活動の場として、イベントスタッフやファシリテーターとして活動に参画していただく。

※第 2 号様式は 3 ページ以内でご記入ください。用紙の大きさは、日本産業規格 A4 とする。

まちづくり活動の実施スケジュール

- ・活動の実施日だけでなく、それに向けた準備（団体の打合せ、広報）についても具体的に記入してください。
- ・1ページにおさまるように記入してください。

年	月	活動項目	活動内容
2026	4	打合せ	活動内容、実施日、団体内で検討会議
	5	申請書提出	申請書の作成、提出
	6	助成決定後打合せ	・活動内容の確認と役割分担の決定 ・実施スケジュールの策定
	7	プロジェクト打合せ イベント準備	・地域の歴史についての調査・情報共有 ・保育園交流に向けた企画検討 ・チラシ作成、SNS 投稿準備
	8	8 / 2 3 (日) Feel 度 Walk 開催 大乃伎神社周辺	・大乃伎神社周辺の歴史探訪 ・保育園児との交流企画の実施
	9	9 / 未定 Feel 度 Walk 開催 大野木城跡周辺	・Feel 度 Walk と知図 ・大野木城跡周辺のまち歩き ・地域の歴史や文化についての交流
	1 0	プロジェクト打合せ 地域調査	・大野木城や地域の歴史についての聞き取り・情報収集 ・地域住民や地域団体との交流・情報共有 ・地域資源を活かした活動内容の検討
	1 1	プロジェクト打合せ 地域調査	・地域の歴史や文化についての探究活動 ・みんなまちフェスに向けた企画検討 ・1 1 / 7 ～ 8 なごや知図展への出展予定
2027	1 2	地域イベント準備	・イベントの開催告知（SNS、掲示板、回覧板）
	1	1 / 1 7 (日) 地域イベント みんなまちフェス開催	例：知図展、交流会、ポッチャ体験会 おゆずり会、昔遊び体験会等 ・参加者アンケートを回収し、次回につなげる ※大野木コミュニティセンターで開催予定
	2	活動の報告の打合せ & 提出	・みんなまち瓦版発行
	3	活動報告会	

備考 用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

まちづくり活動の予算書

1 支出

計画書の活動における支出(予算)をご記入ください。

費 目 手引きの費目を参照		活動項目	内訳・算出根拠	金 額 (円)
まちづくり活動助成金(申請金額) ※活動経費の内、助成対象となる経費が対象です。 ※上限金額: 1回目は5万円、2回目、3回目は10万円				100,000
活動経費の内訳	報償費 謝金	まち歩き イベント	外部講師への謝礼 ※講師依頼中	20,000
	旅費 交通費	まち歩き イベント	講師の交通費 ※講師依頼中	10,000
	消耗品費	各イベント	・用紙、模造紙など事務用品 ・茶菓子代	5,000 9,500
	印刷製本費	各イベント毎	イベントチラシ 200部 イベント当日案内 150部 知図展示パネル 2026 みんなまち瓦版 5,000部	30,000
	使用料 及び賃借料	各イベント	会場代 (大野木コミュニティセンター、 大乃伎神社社務所・集会所など)	15,000
	保険料	各イベント	スタッフ及び参加者の傷害保険 (社会福祉協議会保険) ※イベント1回のみの保険 8月まち歩きイベント 30円×100名 9月まち歩きイベント 30円×100名 1月地域イベント 30円×150名	10,500
支出合計				100,000

※1ページにおさまるよう記入してください。用紙の大きさは、日本産業規格 A4 とする。

